

狛江市一般廃棄物処理基本計画（素案）に対するパブリックコメントで寄せられたご意見と回答について

狛江市一般廃棄物処理基本計画（素案）に対するパブリックコメントでは、4名のご意見をいただきました。こちらでは、ご意見に対する回答を掲載しています。ご意見と回答については、狛江市ごみ半減推進審議会で審議し、基本計画策定の参考とさせていただきました。

○パブリックコメントについて

【実施期間】平成22年10月15日～29日（15日間）

【ご意見者】4名 ※整理・集約して掲載しています。

	ご意見	回答
ごみ処理 事業経過	ごみ処理事業の経過は昭和30年代から書くべきではないか。	ご指摘のとおり、ごみ処理事業について昭和30年代からの経過を掲載します。
発生・ 排出抑制 について	高齢化の進行による紙おむつ等のごみの増加についてどのような対策か。	紙おむつ等の減量について現時点で個別の対策はありませんが、可燃ごみの組成分析を実施するなど今後も注視していきます。
	レジ袋の削減や容器プラスチックごみの削減にもっと積極的に取り組むべきではないか。	基本計画では4Rの優先順位の普及を掲げ、リフューズやリデュース、リユースを優先し、リサイクルにできるだけ頼らないように家庭にごみを持ち込まない消費行動の普及を目指しております。文言を追加します。
	消費行動に訴えるだけでなく、スーパーなどのレジ袋の発生抑制への対応を一步進めて書くべきではないか。	基本計画では販売店との協力体制の推進の中で、販売店の取り組みの現状把握を進め、具体的な発生抑制や減量化への対応を検討していきます。
資源化 の推進 について	資源化に向けた様々な市民活動や市民事業を奨励すると記入すべきではないか。	ごみ減量や資源化の主体となるのは、市民一人ひとりであるため、その市民活動の支援については引き続き行っていきたいと考えます。
	発泡スチロール箱の資源化をスーパー等の協力で回収することはできないか。	基本計画では販売店との協力体制の中でトレー等の店頭回収を促進することとしています。発泡スチロールの店頭回収の可能性については今後の参考にさせていただきます。

	<p>生ごみの堆肥化に関して、市民事業や市民活動を推進するなど、廃棄物にする前に資源化することを行政として支援すべきではないか。たとえば、市内の小飲食店の残飯の回収ルートをつくることや各家庭からの生ごみ回収ルートを市民事業でつくることなどはどうか。</p>	<p>生ごみの減量については、堆肥化の取り組みや生ごみ処理機等購入費助成などを行っているところですが、減量化・資源化の方策について調査・検討を進めていきます。今後の参考にさせていただきます。</p>
<p>多摩川 衛生組合 について</p>	<p>広域行政に関して、自治体からのチェックが有効になる手立てを確立すべきではないか。</p>	<p>一部事務組合である多摩川衛生組合については、クリーンセンター多摩川の周辺環境や灰を搬入する二ツ塚処分場（エコセメント化施設）に配慮した施設運営を目指しており、その旨の記載を加えます。</p>
	<p>クリーンセンター多摩川におけるサーマルリサイクルはあまり進んでいないのではないか。</p>	<p>クリーンセンター多摩川ではごみの焼却により発生した熱を回収し、周辺施設への温水の供給や蒸気タービン発電により施設の電力を一部賄うほか、余剰電力についても電気事業者に売電して収入としており、サーマルリサイクルによる効果は大きいと考えます。</p>